フレッシュタニガケ
No. 432
2025
9

工場の屋根大改修

昨年から、二年がかりで第一工場、第二工場の屋根改修工事を行いました。

従来の屋根は、材質がセメント波板でその上に塗装がされていました。しかし、風雨や積雪で塗装が剥がれ、三年から四年ごとに屋根の塗装の塗り替え工事を行なっていました。

今回、カバー工法といわれる、従来の屋根の上にガルバリウム鋼板をかぶせる工事を行いました。この鋼板は、耐腐食性に優れており、二十年から三十年の耐久性があり、塗装塗り替え工事費の削減ができます。

また、雪の落下対策もしていただきました。これで社員の皆さんは安心して冬季を過ごすことができます。

昨年改修した第１工場の屋根

第二工場の屋根の改修工事を行う職人たち

虫よけアロマミスト「ナチュラル ハーブ バリア」

鍵山秀三郎さんに学ぶ

継続する秘訣

たえず工夫改善して進歩させ、少しでも進歩すれば楽しくなり、楽しくなると、続けたくなります。

『一日一話』鍵山秀三郎著より

ゴキブリ追放宣言

社長日記

「大事の思案は軽く、小事の思案は重く」

清水 勝己

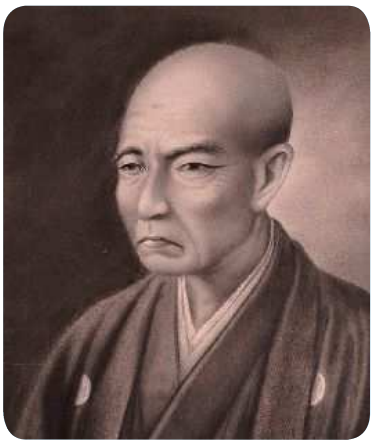
「大事の思案は軽く、小事の思案は重く」という言葉があります。江戸時代の武士、山本常朝の言葉で、武士の心得についての書『葉隠』の一文です。重要なことはサッと決め、小さなことは疎かにしないようにすべきという意味です。

これは、一般的な感覚では「大事の思案は重く、小事の思案は軽く」となるでしょう。では、なぜ「大事の思案は軽く、小事の思案は重く」なのでしょうか。

企業経営で例えれば、「大事」とは、新事業への進出や大規模な設備投資など、今後の企業運営を左右するような判断や決断が該当するでしょう。会社の命運を左右するようなことであれば当然、判断は慎重になり、熟考して物事に取り組んでいると思います。

一方で、「小事」とは日常の業務のなかで判断を下すことが該当するでしょう。「大事」に比べて「小事」は頻繁にあり、仮に判断を誤ったとしても、そのことで与える影響は小さいです。そのため、ついつい「小事」を雑に扱ってしまうこともあるかと思います。しかし、「このぐらいならいいだろう」といった、小さなことを疎かにしたため、「大事」に繋がってしまうこともあります。

「千丈の堤も蟻の一穴から」という言葉もあるように、大きく頑丈な堤防も、蟻がつくった小さな穴から崩れることもある。ほんのわずかな油断が、大きな失敗に繋がる戒めの言葉もあるぐらいです。決して「小事」を疎かにしたくないものです。



山本常朝（佐賀藩士）
（一六五九年～一七一九年）

DCMホールディングス㈱ ダイキ㈱の創業者 大亀孝裕様に学ぶ

愚直に努力すれば幸運は訪れる

倦まず弛まず努力を重ねていれば、いつしか運命は拓けてくる。しかし、どこから、どのようにして幸運が巡ってくるのかは、誰も予想することはできない。

大亀商事を創業して二年目のこと。最初の店舗が手狭になったため、決死の覚悟で親から借金をし、店舗兼住宅を購入した。そして、移転後も毎日早朝から店と周辺の掃除を続けた。

店の前を路面電車が通っていたのだが、朝風呂に通うために毎朝乗車していた一人のご婦人が、掃除している私の姿を、感心の眼差しで見ていてくれたのである。もちろん私は知る由もない。

やがてある日、突然そのご婦人が来店し、ご自宅の台所やトイレなどの工事一式を注文してくださった。まだまだ経営が苦しかった時期である。本当にありがたくうれしい出来事だった。

もしも、私が途中でいやになって掃除をやめていたら、この注文は入らなかっただろう。幸運は、いつやって来るかわからない。毎日の努力を、決して怠ってはならない。

「いくらがんばっても何もいいことがない」と、努力を途中でやめてしまってはいけない。新しい幸運が、今、まさにあなたのすぐそばまで近づいて来ているかもしれないのに、努力をやめてしまえば、その瞬間、その運も消えてなくなってしまうだろう。

『素人じゃけんできること（ダイキ創業者・大亀孝裕のフィロソフィー）』
PHP研究所発行より

大亀孝裕様